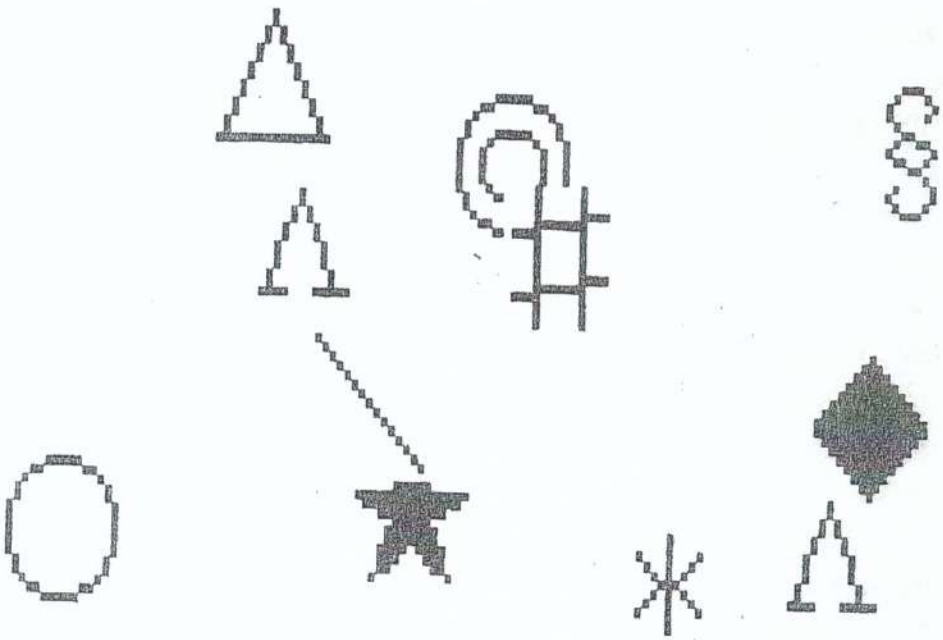
上智大学
第27回秋季

# 語劇祭



# 1985年度

# ——秋季語劇祭開催にあたってのことば——

学長　橋口倫介

第２７回秋季語劇祭にあたり、スペイン語、ドイツ語およびフランス語各劇団の公演を心からお祝い致します。

上智大学演劇協議会が過去の実績を通じて優れた伝統を確立してきたことは学内外の識者によって高く評価されております。学内的には大学の課外活動として豊かなキャンパス・ライフを生み出しており、他方学外の社会からは本学のユニークな芸術活動として注目されてきました。

語劇は元来、諸外国の文芸作品を原語によって上演するところに生命があり、言語上の表現力と、その作品を生んだ社会へのシンパシーとに上演効果の成否がかかっていると思われます。平素、国際性を教育の特色に掲げている上智大学において、団員諸君の外国語会話能力が益々上達することは疑いなく、また諸外国の歴史や文化への深い理解によって劇作家の意図を知り、登場人物の心性をとらえることにも成功するに違いないと信じます。この意味で、語劇祭の成功を祈り、併せてご指導とご協力をいただいた方々に厚くお礼を申し上げます。

学生部長代理　讃井浩平

第２７回秋季語劇祭がいよいよ開催の運びとなり誠におめでとうございます。

演劇には多少の関心はありますが、残念ながら、いづれの外国語にも縁遠く、今更のように不勉強が悔やまれます。

このように盛大な語劇祭を行うに当たっては、その準備や練習に、多くの時間を費やした沢山の方々の計り知れないご苦労があったものと推察いたします。

年に２回の語劇祭を通して、それぞれが、単に外国語を使って劇をやるということだけでなく、若いエネルギーを注ぎ込んだ苦しい練習の中に、喜びと感激の作品をつくりあげることは、学生時代の良き思い出をつくると共に、正課では得られない様々な人間的触れ合いを通して、人格形成に役立つ貴重な体験をされたことでしょう。

本語劇祭が、歴史と伝統の上にアグラをかかないよう、諸君がよりよい語劇祭に向けて、日夜練習してきた成果を世に問う、よい機会かと思います。

この語劇祭にかかわった先輩諸兄姉並びに教職員の皆様に心から感謝の意を表すると共に、これからもなお一層の努力と活躍を願っております。

# 語劇祭実行委員長のことば

川口隆夫

２０世紀も後半、世界はますます狭くなり、「国際社会」という言葉もいまや誰もが口にするようになった。また各国間の往来も以前にも増して激しくなり、もはや全世界はひとつという感がある。しかしながら、果たして我々はどれほど他国を理解しているだろうか。その問題に考え及ぶとき、まだまだ道程は遠いと答えざるを得まい。近年外国語教育、特に英語教育への熱の入れようには拍車がかかる一方であるが、それ自体は非常に好ましいことだとしても、単に語学のレベルにとどまらずその背景にある広い意味での「文化」にまで視野を広げなければ、その価値は半減してしまう。

我々は外国語（西欧語の一部に限られてはいるが）による演劇の上演を行なっている。そこにはただ一元的な外国語習得だけがあるのではなく、その言語の背景にあるその国の文化、歴史、精神性の理解という、実は極めて奥の深い課題がかかわっているのである。確かに演劇のもつ性質上、「ことば」は必要にして欠かすべからぬ重要な要素であり、その点ではかなりのハンディキャップを我々は負っていると言わざるを得ないが、しかし、それぞれの戯曲の持つ本来の「響き」はやはりそれらの作品の書かれた言語を通じて、美しい和音を奏でるのではないだろうか。その「響き」を伝えよう、また理解しようと努力する時、「国際理解」への一歩を踏み出すことになろうと思う。

# USTED NO ES PELIGROSA

## 邦題：こわがらないで、奥様！
（日本語字幕付）

por V.R.Iriarte

10月25日(金)　5：30 開演
26日(土)　2：00　〃
　　5：30　〃
27日(日)　1：30　〃
（開場は30分前）

≪キャスト≫

| | | |
|---|---|---|
| Marta | マルタ | 塚本久美子 |
| Fernando | フェルナンド | 佐野　彰一 |
| Felisa | フェリサ | 松本しのぶ |
| Aurora | アウロラ | 三田　遙 |
| Pepita | ペピータ | 山崎　裕子 |
| Primitivo | プリミティーボ | 高田　大輔 |
| Manolito | マノリート | 前川　淳 |
| Dorotea | ドロテア | 籠田　容子 |

≪スタッフ≫

| | |
|---|---|
| 演　出 | 前川　淳 |
| 舞台監督 | 佐野　彰一 |
| 照　明 | 大谷　倫夫・高田　大輔 |
| 音　効 | 白鳥　美保・籠田　容子 |
| 小道具 | 山崎　裕子・三田　遙 |
| 大道具 | 高田　大輔・大谷　倫夫 |
| 衣裳・メーク | 松本しのぶ・小野寺未砂 |
| 字　幕 | 塚本久美子・谷　香名美<br>佐野　彰一・籠田　容子 |
| 宣伝美術 | 谷　香名美・白鳥　美保 |
| 制　作 | 松本しのぶ・小野寺未砂 |

## 〖各劇団沿革〗

### ✽ドイツ語劇

'60 辛抱強く、従順なグリザルク辺伯爵夫人　クライスト
'61 こわれがめ　ホーフマンスタール
'62 イェーダーマン　ミヒャエル
'63 青い麦わら帽子　ロスマン
'64 シェイクスピアの死　レッシング
'65 女嫌い　ゲーテ
'66 初稿ファウスト　ゴットヘルフ・トーマ
'67 黒い蜘蛛
'68 血縁
'69 ジークフリートの死
'70 物理学者　デュレンマット
'71 ロムルス大帝　デュレンマット
'73 モンテビデオの家　ゲッツ
'74 セチュアンの善人　ブレヒト
'75 洪水　グラス
'76 ドン・ジュアンまたは幾何学への愛　ブリッシュ
'77（春）塔　ヴァイス
'77（秋）三文オペラ　ブレヒト
'78 青年の病気　ブルックナー
'79 シュテラ　ゲーテ
'80 寂しい道　シュニッツラー
'81 戦場の花嫁　アウグスト・シュトラム
'82 グッドバイ　太宰治
'83 こうもり
'84（春）三文オペラ　ブレヒト
'84（秋）ふたりのロッテ　ケストナー
'85（春）サーカス物語　エンデ

### ✽スペイン演劇研究会

'60 小犬　アルニチェス
'61 せんべい売り
'62 善意の人　アルニチェス
'63 作りあげた利害　ベナベンテ
'64 姿なき愛　フェンテ
'65 エル・キントピノ　トノ
'66 あなたも殺人者になれる　パソ
'67 六頭立ての馬車　イリアルテ
'68 前夜　イリアルテ
'70 洪水　マウラ
'72 砂に書いた言葉　バジェホ
'73 暗闇の中の愛　キンテーロ
'75 雲が形を変える時　クリアード
'76（春）ママの私生活　イリアルテ
'76（秋）背徳の城　トーレ
'77（春）ア・メディア・ルス・ロス・トレス　ミウラ
'77（秋）立ち枯　カソーナ
'78（春）家の中の空　アルフォンソ・パソ
'78（秋）三人の妻　カソーナ
'79（春）エン・サ・ピエンサス　ビジャウルティア
'79（秋）白墨の輪　アルフォンソ・サストレ
'80 浮気の治し方教えます　ビクトール・ルイス・デイリアルテ
'81（春）ラストダンスはあなたと　ミゲル・ミゥーラ
'81（秋）勝手にしやがれ　アルフォンソ・パソ
'82（春）配達された1通の手紙　ビクトル・ルイス・イリアルテ
'82（秋）遺産相続人　アントニオ・ブエロ・バジェホ
'83（春）じゃじゃ馬さしあげます　フリオ・マティアス
'83（秋）闇の中の銃声　ホセ・マリア・ペマン
'84（春）街で拾った女　ルイス・エスコーバル
'84（秋）ラ・イェドラ　ハビエル・ビジャウルーティア
'85（春）おじさまは筋肉マン　ラウロ・オルモ

### ✽フランス語劇

'60 町人貴族　モリエール
'61 イタリアの麦わら帽子　ラビッシュ
'62 ジョルジュダンダン　モリエール
'63 気で病む男　モリエール
'64 いやいやながら医者にされ　モリエール
'65 スカパンの悪だくみ　モリエール
'66 守銭奴　モリエール
'67 女学者　モリエール
'68 泥棒たちの舞踏会　ジャン・アヌイ
'69 ムッシュ・ド・プールソニャック　モリエール
'70 将軍たちのおやつ　ボリスヴィアン
'71 フィガロの結婚　ボーマルシェ
'72 イタリアの麦わら帽子　ラビッシュ
'73 野性の女　シャン・アヌイ
'74 恋は医者　モリエール
'75 エスキュリアス　ド・ゲルドロード
'76 出口なし　サルトル
'77 墓場なき死者　サルトル
'78 戦場のピクニック　アラバール
'79 泥棒たちの舞踏会　ジャン・アヌイ
'80 アンティゴーネ　ブロシェ
'81（春）星の王子様　サン＝テグジュペリ
'81（秋）植民地　マリヴォー
'82（春）女ですもの、欲しがります―パンタロンの結婚―　J・ベジノ
'82（秋）ひばり　アヌイ
'83（春）星の王子様　サン＝テグジュペリ
'83（秋）泥棒たちの舞踏会　ジャン・アヌイ
'84（春）恋は医者　モリエール
'84（秋）死せる王妃　ド・モンテルラン
'85（春）家具つきの貸家　デルビリエ

### ✽ロシア語劇サークル

'60 どん底　ゴーリキー
'61 検察官　ゴーゴリ
'62 ワーニャ伯父さん　チェーホフ
'63 ごきげんよう　ローゾフ
'64 初恋　ローゾフ
'65 プラトン・クレチェット　コルネイチューク
'66 結婚申し込み　チェーホフ
'67 イルクーツク物語　アルブーゾフ
'68 私のかわいそうなマラート　アルブーゾフ
'70 ワーニャ伯父さん　チェーホフ
'72 見世物小屋　ブローク
'73 三人姉妹　チェーホフ
'74 ヴェロニーカ　ローゾフ
'75 かもめ　チェーホフ
'76 ターニャ　アルブーゾフ
'77 披露宴　チェーホフ
'78（春）イルクーツク物語　アルブーゾフ
78（秋）どん底　ゴーリキー
'79（春）熊・記念祭　チェーホフ
'79（秋）かもめ　チェーホフ
'80（春）桜の園　チェーホフ
'80（秋）私のかわいそうなマラート　アルブーゾフ
'81（春）ピロスマニ　コロスティリョフ
'81（秋）検察官　ゴーゴリ
'82（春）イルクーツク物語　アレクセイ・アルブーゾフ
'82（秋）不均衡な闘い　ヴィクトル・ローゾフ
'83（春）闇の王国のひとすじの光
'83（秋）
'84（春）死の勝利　フョードル・ソログーブ
'84（秋）ワーニャ伯父さん　チェーホフ

# DIE EHE DES HERRN MISSISSIPPI

von Friedrich Dürrenmatt

## ミシシッピー氏の結婚

デュレンマット作

11月22日(金) 5：30
23日(土) 2：00
24日(日) 2：00

≪キャスト≫

| | |
|---|---|
| フローレスタン・ミシシッピー | 三上 勝仁 |
| アナスタージア | 高島 まき |
| フレデリック・ルネ・サン＝クロード | 藤澤 英忠 |
| ボード・フォン・ユーベローエ伯爵 | 千田 章貴 |

≪スタッフ≫

| | |
|---|---|
| 演出 | 高島 まき |
| 舞台監督 | 藤澤 英忠 |
| 照明 | 大橋ありこ・原田まり絵 |
| 音効 | 日高 明子 |
| 字幕 | 関川美知子 |
| 大道具 | 三上 勝仁・丸山 和彦 |
| 小道具 | 千田 章貴 |
| 宣伝美術 | 古屋かおり |
| 衣裳 | 芦尾 千夏 |

## ◆あらすじ◆

幕が上がるとそこはマドリッドの高級フラット。まだ若く著名な作家、フェルナンドの家です。女中のフェリサはお隣りの平凡なオールドミス、マルタが彼に恋しているのを知り、心配事を相談します。ここ数日、悩み沈んでいた彼が今日、昔の愛人達を呼び出して…と、話の最中に早速、愛人達が到着!! 人気歌手のアウロラ、学生のペピータ、代理で来た元愛人の夫プリミティーボを前に、憔悴しきったフェルナンドは、誰か1日だけ妻のふりをして叔父の家へ一緒に来てくれと頼みます。1人身では叔父の遺産の相続権を失うから…という彼の話に、また2人でやり直せると期待して来た彼女達はカンカン!!彼の哀願を無視して出て行きます。そこでフェリサは困っている彼にある解決法を披露します…。

そして舞台は叔父の家。わけもわからずツインルームに通されたマルタは、話を聞いてびっくり!!奥様と信じ込まれ、気をきかした女中にドアの鍵をおろされ、たとえ好きでも手の早い男性と一夜を過ごすはめになり、彼女は大狂乱!!困ったフェルナンドは慣れた口説き文句に美辞麗句、遺産の為になだめます。「あなたは仮にも僕の妻だ。愛人みたいに扱えないよ…」 彼の言葉で落ち着いたマルタは、せつない胸のうちを明かすのですが…。

デート、ロマンス、スキャンダル…全く無縁のマルタと、その道一筋!!女たらしのフェルナンド。いったいどうなりますやら?!あとは見てのお楽しみ!!

## ◆演出所感◆

演出　前川　淳

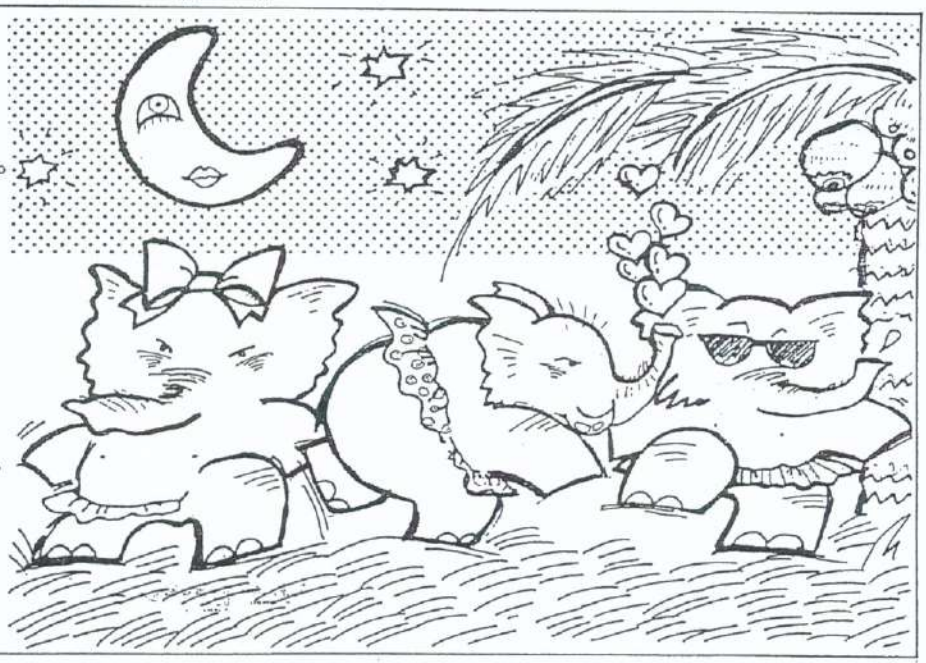
ストーリーは非常にわかりやすいので、役者が納得して演技できるものにするつもりである。また別にむづかしく考える必要性もないので、部員全てが積極的に劇に対するイメージを持ってのぞめるから、きっとみなの意見が入った作品になると思う。「小さなクラブ」ゆえに、その方がより効果的な作品になるであろう。あとはお客様の判断に全てをおまかせする。

しかし、この現代においてこのような安直なストーリー展開が許されるのであろうか。そう考えてもみたが、複雑だ何だと騒ぐわりには世には安直で単純な事がいっぱいある。そして複雑だって言われていたことは解決もされずに放っとかれて、忘れたころにまたまた世を騒がせるのだ。このストーリーもマルタの一人よがりで終わってしまった感がぬぐえない。閉じられた幕の向こう側では何か起こっているのかわかったもんではないのである。そういうことも考えながら、一方的に幕を切ってしまった勝手なマルタをどうしてやろうかと思う次第である。

'85春季公演日El Cuerpo ～おじさまは筋肉マン～ から半年がたち、もう時効ということで裏話をひとつふたつ。

何よりも公演のたびに、また何度かのリハのたびにシャツを破っては縫い、破ってはまた縫い直すという記録的な針仕事がある。また、カツラも二種類使ってみたが、異常なくらい似合わない人もいれば、ほとんど"自毛"のようにフィットしてしまった人がいたのは実は不思議だ。

＜匿名希望＞



# LES PRECIEUSES RIDICULES

（邦題：才女気取り）　（原作 モリエール）

日時

12月6日　5時30分
7日　2時　5時30分
8日　1時30分

（開場３０分前）

≪キャスト≫

| | |
|---|---|
| ラ＝グランジュ | 野呂　正行 |
| デュ＝クロワジー | 屋田　真 |
| ゴルジュビュス | 矢野　嘉春 |
| マドロン | 原　万里亜 |
| カトス | 野崎　香 |
| マスカリーユ侯爵 | 中島　哲也 |
| ジョドレ子爵 | 山田　達也 |
| マロット | 滝口　桂 |
| マルチーヌ | 田中美和紀 |
| リュシール | 升　紀代枝 |
| セリメーヌ | 米山亜紀子 |
| 楽士 | 岸　みどり・他 |
| 刺客 | 安達　勝也・他 |

≪スタッフ≫

| | |
|---|---|
| 演　出 | ：山田　達也 |
| 大道具・小道具 | ：小倉　政嗣・大平　陽一 |
| 照　明 | ：石嶋　信彦・斉藤　昇 |
| 衣　裳 | ：本多　江津 |
| 宣　伝 | ：片岡　良男 |
| 音　響 | ：杉山　聡 |
| 発音指導 | ：ジャック　ベジノ先生 |

## ◆あらすじ◆

死刑判決を一つでも多くとることに熱心な検事ミシシッピーは、夫を亡くしたばかりの未亡人アナスタージアを訪れる。彼は、心臓麻痺で死んだとされる彼女の夫が、実は彼女自身によって毒殺されたということを暴くのだが、彼もまた、彼の妻を同じように毒殺したことを告白する。ミシシッピーの妻とアナスタージアの夫は、愛人関係にあった。しかし、ミシシッピーは、殺人の罪にふさわしい償いとしてアナスタージアと結婚する。いっしょにいれば、互いに自分の行なったことを思い出さざるをえないからである。

ミシシッピーは高貴な生まれであると自称しているが、実は身よりもなく、非常に貧乏な暮しをしていた。その頃いっしょに女郎部屋を経営していたのが、サン＝クロードである。彼はマルクスの「資本論」に影響され、将来、世界革命を起こしてやろうと考えている。

アナスタージアに毒薬を渡した医師ユーベローエは、キリスト教的人間愛から、人類の救済を夢見ている。彼は正直な人間で、５年前、アナスタージアの夫が死ぬ以前に彼女は自分と浮気をした、とミシシッピーに言うが、彼女はそれを否定する。ミシシッピーは彼女の貞操を確めようとするが……。

## ◆演出所感◆

アナスタージアは、自由な女です。

彼女の相手は、それぞれの信念にとりつかれ、実現できそうにもないことを夢見ている男たちです。彼女は、そんな男たちを心の中で笑いながらも、自分が生きようとするために、彼ら一人一人を異なった角度から「利用」しているのです。彼女は、もちろん彼らに振り回されている訳でもなければ、故意に彼らを振り回している訳でもありません。ただ、ひたすらに、生きようとしているだけなのです。アナスタージアは、したたかな女です。

さて、４年生の引退後、メンバーが１、２年生だけになってしまったグルッペが、スイスの現在戯曲家デュレンマットの作品を選んだのは、少々冒険でした。ストーリーも複雑、セリフも多い、そして演ずるのが、ドイツ語をはじめて間もない１年生達なのですから。でも、私達は私達のデュレンマットが表現できると信じています。

---

私達ドイツ語劇団は２７年の古い歴史を誇り、多くの先輩方がいらっしゃいます。今回は４人のＯＢの方々からメッセージをいただきました。(敬称略)

若林吉彦（学生担当副学長）　初代学長がドイツ人であったことでもわかるように、本学には、上智といったら独語といわれてきた歴史があります。従って本学の独語劇には上智ならではの長い良き伝統があるのです。かつての出演者の一人として、今回の独語劇の上演がこの伝統の生き証人としての新しいページを創造してくれるものと期待しております。

吉田 有（独語学科教授）　振り返る。1962年夏の昼、猪苗代高原で立ち稽古。準備不足の後輩達に不機嫌な僕、白髪頑固老人Lutze 教授。夜、ゆかた姿のすらり色白美人Ackermann先生。秋、砂防ホールで上演。ご機嫌な僕達。前を見る。夏の中を秋へ走るグルッペ 85。Viel Spaß!!

柿沼 徹（昭和５５年卒業）　独語をすっかり忘れ去った現在も、あの語劇の日々はクッキリと想い出される。洞窟のような小劇場の中で、友人たちの未熟な、自由な個性たちが、不屈に、色とりどりに煌いていた!!当時の精魂ばかりが懐しく想起されるのはなぜだろう。

岡田広美（４年在学中）　独語で芝居を打つ限り常に大きな制約がつきまといます。そのために今まで何度壁に打ちあたったことか。でも「それならその枠の中で最高のものを作り出してみせる!!」その心意気がこれまでグルッペを支えてもきたのです。それを忘れずに前進し続けてほしいですね。

## ◆あらすじ◆

ゴルジュビュス氏の娘、マドロンとその従妹カトスは、田舎育ちの勝ち気な娘。ゴルジュビュス氏に連れられてパリに出てきたばかり。田舎育ちの娘が都会の流行にあこがれるのは今も昔も変わりません。マドロン、カトスの二人もそこは人一倍負けず嫌いの娘ですから、一日も早くパリの流行を身につけようとガンバっております。

ところでこの頃、すなわち１７世紀のパリの流行といえば、才人才女と呼ばれること。優雅な振る舞い優雅な言葉、サロンを開いて女王のように扱われる、人々の讃美の的となることです。マドロン、カトスの両嬢も一日も早く社交界にデビューしたいと焦っております。が田舎育ちの悲しさ、どうも気取り方が的外れになってしまいます。

一方ゴルジュビュス氏は娘たちを一日も早く結婚させて肩の荷を降ろしたいと願っております。そこで、パリに住む裕福な紳士ラ＝グランジュ氏とデュ＝クロワジー氏の二人を招待します。しかしこの二人、善良ではありますが流行にはいささか疎いところがありまして、二人の娘の気に入るわけがありません。こっぴどくふられてしまいます。この仕打ちに腹を立てたラ＝グランジュ氏は、一計案じてこの滑稽なる似非才女をからかってやろうといたします。さてその策とは?!

マスカリーユは、ラ＝グランジュ氏の下男仲間の中で才人といわれた男、やたらに気取っては仲間を馬鹿にしたりするので、近頃は疎んぜられております。ラ＝グランジュ氏はこの男に目をつけ侯爵に仕立て、またデュ＝クロワジー氏も同じような下男のジョドレを子爵に仕立てて、マドロン、カトスの家に送りこみます。まんまと引っかかった両才女は、二人の下男をサロンの英雄として歓待し、そのデタラメな才人振りに心を奪われてしまいます。

近所の友人達を招いての舞踏会の真最中、屈強な男たちを連れて乗りこんできたラ＝グランジュ氏とデュ＝クロワジー氏は、二人の貴族が実は下男であることを暴露してしまいます。二人の娘はヒステリックな非鳴を挙げ、ゴルジュビュス氏は逆上して楽士達をぶん殴り、大混乱のうちに幕となります。

## ◆演出所感◆

喜劇にはくどくどとした理屈はいらない、と私は思っている。観客はなんの予備知識もなく、ふらりと劇場に入って、面白ければ笑い、つまらなければ欠伸をする。それでいいと思う。観客が笑ってくれれば、その劇は脚本・演出とも申し分ないのだし、観客がそろって欠伸をすれば、脚本か演出のいずれか、あるいは両方が悪かったということになる。もっとも我劇団では、人気のある作家の成功した脚本を使っているから失敗したらそれはすなわち演出が悪いということになる。ただ我が劇団は、フランス語ですべての台詞を言うから、おそらくほとんどの人は一言も理解できないであろう。だから喜劇に理屈はいらない。などと言ってはいられない。そこで少しだけ説明を加えることにする。

今回演出するにあたって、私はみなさんに台詞を理解してもらうことはあきらめた。しかし、楽しんでもらいたいという気持ちは、勿論ある。そこで、動きを大きくしてそこで笑ってもらおうと考えた。三流役者のように派手な動き、叫び、皆さんに笑ってもらおう。それで笑ってもらえれば、それはそれでよし。もし笑ってもらえなければ、それは私の失敗だ……。

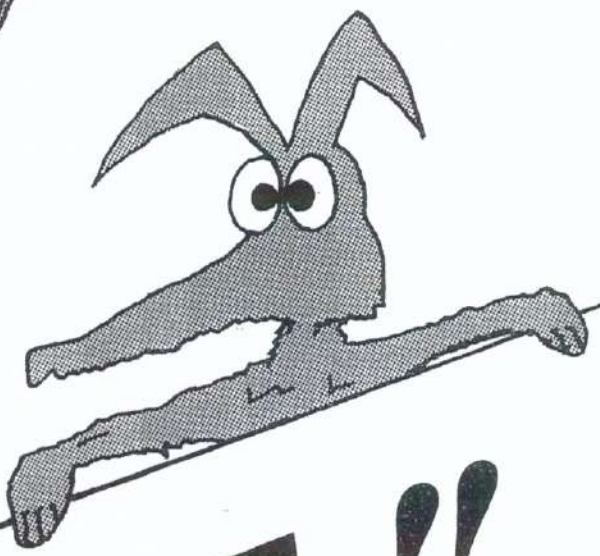
# ロシア語 劇 サークル

Здравствуйте!

私達ロシア語劇サークルは、ロシア語学科が創立して間もなく誕生しました。以来4半世紀以上にわたって活動を続けています。

外国語劇は日本語劇と違った難しさを持っています。日本語劇の場合、観客と演技者を結ぶものは日本語という「言葉」と「演技」です。しかし、外国語劇の場合、観客のうち少数の人しかその言葉を理解できません。そのため言葉以上に演技を重視し、こまやかな演技によって、言葉では表現し得ない部分まで皆様に理解していただこうと努力しています。それにはキャストだけでなく、スタッフも充実させなくてはなりません。

現在のロシア語劇サークルは、



## 来春 公演迫る!!

昨年の秋、「ワーニャ伯父さん」の公演後、全く新しいメンバーでスタートしました。従って、まだ未熟でもあり、練習量も決して多くありません。このような状態で公演を行っても、果して皆様に満足していただけるでしょうか。

そこで、'85年は'86年春季公演への準備期間とし、公演は行いませんが、私達は部員一丸となって観客の皆様に満足していただけるような劇づくりを目指しています。

来年の春には、皆様に今までとは一味違った「ロシア語劇」をお贈りいたします。

乞う御期待!!

| キャスト・スタッフ | 長期希望 | 男女 |
|---|---|---|

(国) 上智大生の方、大歓迎!

(地) 四谷駅下車 徒歩3分

やる気のある方求ム
歴持参、委細面談
入部希望者はHホール325又は
☎268-2671(呼)山本真規子まで
ロシア語劇サークル

## ――編集後記――

今回のパンフはいかがなものでしょうか。自分たちでは楽しみながら作ってみたのですが…。特に思いきって冒険してみた表紙などは、世間の感覚とギャップがあるのではないかとやや不安です。このような不安は劇や音楽など物を創造する場合に共通の不安ではないでしょうか。そこでみなさんの声をお聞きしたいのです。舞台、このパンフそして語劇祭全体に対してご意見をいただければと思います。 <Y.K.>

## ✾パンフレット製作者の顔ぶれ✾

語劇祭実行委員長　川口　隆夫

編集責任者　片岡　良男

編集委員　小野寺未砂　馬場孝一郎　藤澤　英忠　皆川かおる　松本しのぶ

なお、最後まで親身になってお世話をして下さった学生プリントセンターの方々には、この場を借りて感謝の意を表したい。


新勧パンフ・ポスター
プログラム・チケット
チラシ・研究レポート
名簿・部誌・アルバム
……etc

**印刷・製本**

★ページ物には特に実績があります★

**学生プリントセンター**

電話 352−3616

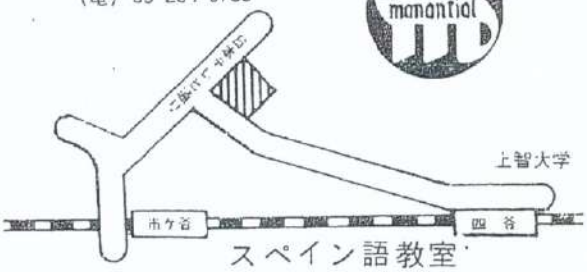
東京都新宿区新宿2−17−4 第2坂巻ビル2F（リリーマンション）

健康保険医療機関

**太田歯科**

受付
AM10:00〜PM0:30
2:00〜PM5:30
土・日・祝祭日休診
東京都千代田区麹町5−7−2
第31森ビル1階　TEL 262−8069

マナンティアル書店
（スペイン語の本）
MANANTIAL
LIBRERIA ESPAÑOLA
東京都千代田区六番町4-3
〒102　山菱ビル内
（電）03-264-0788



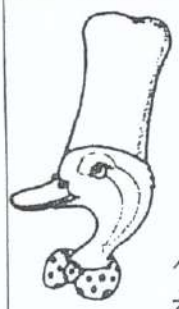

スペイン語教室

入学随時
**トマス外語学院**
英・仏・西・独
各々外人専門講師
少人数制クラス
千代田区神田神保町スズラン通り
☎（03）291−9341代

スペイン語・ポルトガル語書籍・雑誌のお問い合せ、ご注文承ります。

有限会社 スペイン書房

〒101 東京都千代田区猿楽町2丁目4番2号 小黒ビル
電話 (03)292-8785



カジュアル レストラン バブ
SnowGoose
スノーグース

パーティ・コンパのご予約を
ボリュームいっぱいのおつまみで
特製デカンタワイン1,000円

四ツ谷　主婦会館となり
PHONE 234−5986